

## 泉州堺勝軍山善長寺松觀世音菩薩略縁起

抑も當寺十一面觀世音菩薩の由来を尋ね奉るに往昔人王百五代後柏原院永正十三年  
源の從四位少將三好善長(三好政長)公當堺の津阿彌道場の境内に別館を構え給ふに此の  
道場の辺りに一本の松樹茂りて其の蔭に古塚あり夜なよな光りもの出るとて人皆塚に近  
づくものなしある日善長公此の館内に宿らせ給ふに其の夜の夢に一人の童子告げて曰く  
「我、此の塚にありて汝を待つこと久し」とあらたかに示し給ふ善長公驚嘆ましましやが  
て家臣岩成出雲守に命じて彼の塚を掘らしめ給へば果たして一の石の櫃あり蓋を開けば御  
長八寸立像の十一面觀音菩薩光明を放ちてあらはれ給ふ善長公隨喜の余り其の塚の跡に  
小室をたてて此の尊像を安置し給ふ今に松の觀世音とも又は夜光の觀世音とも称し奉る是  
なり若し善長公の御身の上に吉事あれば則歎喜微笑の御面相に拝まれ給ひ又凶事ある  
時は御全身に汗をなし給へば常に恭敬し給ふにも南無微笑大悲觀世音菩薩と唱へ給ふとか  
や其の頃和洲筒井の城主筒井喜藏定盛といふ者王命に背く事あり善長公勅詔を蒙り  
天文十一年の秋河洲大の本の城へ尙向し給ひ彼の定盛を打ち亡ぼし給ひけるも此の觀世音  
大悲の靈縁によつてなり其より堺へ御帰館あつて討取れる敵の首を庭上の松ヶ枝に掛け並べ  
酒を賜ふて軍卒の勞を慰めらる故に此の松を勝軍松とも云い又首掛松とも言伝へり同十  
八年の春三好長慶と矛盾のこと有りて攝洲中島の城に於いて合戦數度に及ぶ其時當館内に  
怪異のこと多し尊き尊像は御目に涙を浮かめ給ふつづいて五月廿日の夜善長公夢に八

旬計りの老翁打ちしをれて告げ給ふは「吾汝を守りて形に影の添ふが如し 故に是まで武勇  
を振ふて獅子王に似たり然れども一族の長慶 身中の虫と成りてすでに汝を亡さん、是皆  
前世の業因にして佛力も転ずること能はずと知るべし」と御夢告げありたれば、善長公  
御帰依の僧頭空上人を城内に請じ給ひ御子息因幡守(三好政勝)殿とに彼の霊夢を語り我  
運命ここに極まる我落命せば彼の霊像を本尊となし堺の館内に一字の梵刹を造立し此の上  
人を開山と仰ぎ精舎を善長寺と名付くべし、我が遺跡と思はば子々孫々かならず尊敬し奉  
れと約し給ひて 同六月廿四日五十八才にて攝洲中島江口の里に於いて長慶の為に戦死し  
給ひぬ 上人御遺骸を求めて此の寺に納め「長樹院殿一峯宗三弘安居士」と諡し給ふ 善長  
公の武具等は去ぬる慶長の兵乱にことごとく回録に及ぶ又此の松の樹も兵火によつて枯木と  
なりしかども不思議や二度枝葉を生じ千歳の色をあらはす事ひとへに大悲の誓にもれずと  
諸人今に歩み運び松の観世音と仰ぎ奉るもの也

委しくは本縁起にゆづりて此所に略す